

ひょうご

職親会だより

2012. 3 第28号

※ 職親会(兵庫県精神保健職親会)は、精神障害者の就労を支援する事業主の会です。

【目次】

《報告 ①》

平成23年度中播磨職親研修会 P 1

《報告 ②》

平成23年度働く精神障害者からのメッセージ発信事業
東海・近畿・中国・四国ブロックセミナー (in三重) P 4

報告

1

平成23年度中播磨職親研修会

【共催】わーくわくねっと (中播磨心的障がい者就労支援協議会)



昨年10月、姫路市にて地域研修会を実施しました。

前半は、神戸大学大学院の橋本健志先生より精神障害者の就労支援についてご講演いただき、後半には職親等支援者と社適の経験者を交えパネルディスカッションを行いました。100名近い参加者が集まり精神障害者が働ける社会について、考えていく機会となりました。簡単ではありますが、ここではその一部を紹介いたします。

【赤藤英樹氏 《(有)サポートセンターれいめい相談支援員》】

- ・ デイケアの職員さんを通じて野村さんと出会い社適と出会った。今年の8月からは正式雇用となり今は週に30時間働いている。
- ・ 通院や入浴の介助をしているが最初はうまくできなかったし、クビになりかけたこともあったけど、まわりの支えでここまでやってこれた。
- ・ 毎日その日の体調を点数化している。体調には波がある。体調の悪い時は野村さんや先輩に話を聞いてもらっている。仕事を続けることができるのも、相談できる人がいるからこそ。
- ・ 今後は年金に頼らずに、経済的自立をしたい。あと結婚もしたい。



【福永勝博氏 《(有)サポートセンターれいめい相談支援員》】

- ・昔から人間不信があり目の前にいる人がのっぺらぼうに見えていた。小学校の頃から自殺願望もあった。
- ・座右の銘は「しなければならないことはしなければならない」、そしてアントニオ猪木さんの最後の試合の『道』という詩の言葉。
- ・デイケアでゆっくり過ごす日々だったがヘルパー2級を持っていたことで、デイケアスタッフに野村さんを紹介してもらった。偶然に出会えたことをうれしく思う。
- ・嫌になる時もあったが「もうちょっと頑張れ」と野村さんに言われて乗り越えたこともあった。工夫してうまくいったことが嬉しかった。今でもそういった経験をした時のことを思うと「この仕事は天職だ」と思う。
- ・自分を助けてくれる人はいつかは現れる。それが今日なのか明日なのかまだ先なのか分からないけど。でもいつかは現れるので待ってほしいと思う。

【野村浩之氏 《(有)サポートセンターれいめい代表》】

- ・失敗から学ぶことは多い。どんどん失敗をしよう。
- ・多くのことは話し合うことで良い方向に向かうと思う。話を聞くことで適切な評価ができる。個々と話せる環境作りを大切にしている。
- ・息抜きは大事。息抜きと手抜きは違う。いい意味のいい加減さや調整をうまくすることが大切。
- ・イタリアのトリエステにも社適と似た制度があるが、治療の一環として利用できるという点が興味深い。日本では現在は軽度の人のみが社適を利用しているが、今後は治療の一環として利用できるようなになれば、もっと広がるのではないかと思う。



【宇都宮弥生氏 《(有)クレヨンFARM職員》】

- ・今はクレヨンFARMで調理補助や掃除などの仕事をしている。1日に2時間から始めて今は1日4時間週20時間働いている。
- ・てきぱきとできないことがあるが、他の人に助けをもらいながらやっている。
- ・料理を上手に作れるようになりたい。(今はあんまり得意な料理はなくきゅうりの酢の物くらいかな)

(クレヨンFARM施設長より)

出会ったころに比べ、驚くほどいろいろなことができるようになった。今まで教えてもらう機会自体が少なかったのだと思う。最初はあいさつもできなかったが、経験の中でいろいろなことを学んでいったのだろう。

【野村楠美氏 《地域活動支援センターえんじぇる》】

- ・ 社適は社会への窓口。最初は生活リズムを整えることや気力と体力の回復となるよう見守っていた。
- ・ 「今日はどうだったか」ということを聞いて、その日のうちに問題を解決するようにしている。「言わなくても分かるだろう」とこちらが勝手に思い伝わっていないことが何度かあった。今はほめられたことや、注意されたことはなぜかということ、具体的に話し合うようにしている。
- ・ 以前は働きたくても仕事に繋がられない時代もあった。これからは繋がるどころがたくさんある姫路になってほしいと思う。



【三木章浩氏 《わーくわくねっとキャリアサポーター》】

- ・ 「一人でも多くの方が活動でき一般就労に繋がるように」という思いでキャリアサポーターとして活動している。企業で派遣先を探していた時の経験を活かして、訓練生の実習先の開拓を行ったり、事業所に働きかけたりしている。
- ・ 支援者と信頼関係ができている人は長続きしていると感じる。それが自信となり、自立に向けて力をつけていると感じる。
- ・ 障害者、健常者かに関わらず、認められたい、受け入れられたい、愛されたいと誰もが思う。そういったことの実現のためにも一つの施設だけでなく、ネットワークを広げて、実を結んでいきたいと思う。

【橋本健志氏 《神戸大学大学院保健研究科教授》】

- ・ 当事者や支援者の話を聞くと「繋がっているな」「相互に支援されているな」と思う。
- ・ 大変さもちょっとした自慢話になる。ちょっとした自慢話は人を幸せにする。ちょっとした良いことを共有できる幸せを感じた。今日はほんとに来て良かったなと思える研修会だった。その地域によってやり方があり、姫路は『姫路モデル』として広がっていくといいなと思う。



報告 2

平成23年度働く精神障害者からのメッセージ発信事業 東海・近畿・中国・四国ブロックセミナー (in三重)

2月に三重県桑名市でブロックセミナーが開催されました。そこで語られた、今後の精神障害者の就労の課題や展望について、一部ではありますが、ご紹介したいと思います。

日本精神科病院協会の調査 (2003) によると…

○外来患者7,928人のうち、仕事をしている人は？ → **29.4%** (約2,330人)

○精神科医によると **54.3%**の人が企業で働ける (パートタイム含) と予測

ハローワークでの求職申し込み中の精神障害者は、この10年間余りで **6倍** 以上増加!!

精神障害者の雇用・就労を妨げているものってなんだろう？

- 『働くことは再発・再燃をもたらす』という関係者の「不安・心配」
- 精神障害者への支援の仕組みの「遅れ」
- 精神障害者は理解できない怖い存在だという社会の「偏見」
- 精神障害者は「働けない」とする「誤った常識」

↓ それに対してわれわれは今後どのように考えていかなければならないのだろう？

働いている人は少なからずいます。適切な支援を受けて働くことは、病気の再発をおさえるとも考えられていますし、職場で一緒に働くことが理解を深め、まわりへの誤った常識を覆すことにもつながります。

平成25年8月までに新しい総合的な法律が作られることになっています。新しい制度に私達の思いを反映させていくためには、なによりも当事者やその支援にあたる人の積極的な声が望まれます。

皆がそういった声に耳を傾け、考え、話し合い、交流して、地域に支援の輪を作っていくことが必要です。兵庫県精神保健職親会としても、精神障害のある人が雇用・就労を通じて納得のいく社会参加ができる社会を地域に実現するために今後も取り組みたいと思います☆

《報告者 兵庫県精神保健職親会 事務局》

☆兵庫県精神保健職親会 会員及び賛助会員 募集中

会 員 (社適事業所に限る) 年会費 3,000円

賛助会員 (団 体) 年会費 3,000円

賛助会員 (個 人) 年会費 1,000円 を募集しております。

☆職親会では『手伝ってください！職場への第一歩《手引き書 (A4冊子) 版・リーフレット版》』を作っています。就労支援で困った時や啓発にご活用ください。

【事務局】 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2

兵庫県精神保健職親会 (県立精神保健福祉センター内)

Tel 078-252-4980 Fax 078-252-4981

お問い合わせや、ご賛同いただける場合は、上記事務局までご連絡下さい。